

IODEP マニュアル
《ステラス F-1 トラブル監視システム》
rev 1.0

2013/04/18 株式会社 Javatel

目次

IODEP マニュアル 《ステラス F-1 トラブル監視システム》 rev 1.0.....	1
目次.....	2
1 この文書について.....	3
2 変更履歴.....	4
3 ハードウェアの準備.....	5
3.1 ステラス F-1 トラブル監視システム側の準備.....	5
3.1.1 ICS-100 の設定.....	5
3.1.2 接続テスト.....	5
4 設定ファイルの準備.....	6
4.1 設定ファイルの準備.....	6
5 ステラス F-1 トラブル監視システム→IODEP.....	7
5.1 定義ファイル名.....	7
5.2 メッセージ詳細.....	7
5.2.1 定義行の構成.....	7
5.2.2 受信シグナル書式.....	7

1 この文書について

本文書では、IODEP とステラス F-1 トラブル監視システムとの連携方法について記述します。「IODEP_共通.doc」を先に読んでいることを前提とします。

2 変更履歴

1.0 2013/04/18 マニュアルの文書構成を大幅に見直し。複数ファイルに分割。

3 ハードウェアの準備

3.1 ステラス F-1 トラブル監視システム側の準備

ステラス F-1 トラブル監視システムから RS-232C クロスケーブルで ICS-100 に接続します。

3.1.1 ICS-100 の設定

RS-232C 接続する場合、ファームウェアの更新は必須ではありません。

[Network Configuration]

DHCP Client : Disable

IP Address : (LAN 内の固定 IP アドレスを指定)

Subnet Mask, Gateway : LAN 内の設定に準拠

DNS : 0.0.0.0

System Name : ICS-100-1 (他の ICS-100 と区別するために分かり易い名前を付けてください)

[[Operation Mode]

Serial Port Operating Mode : Pair Connection – Local(Master)

Support Protocol : (チェックしない)

TCP Port Number : 1024

Inactive Timeout : 20

[Serial Port Configuration] (ステラス F-1 トラブル監視システムの仕様に準拠)

Mode : RS232

Baudrate : 9600

Character Bits : 7

Parity Type : even

Stop Bit : 1

Hardware Flow Control : none

Delimiter : 全てチェックしない

3.1.2 接続テスト

ここまでの設定で、ソケット送信アプリケーションを利用してデバイスとの接続テストを行うことができます。

[PuTTY] 日本語版

<http://hp.vector.co.jp/authors/VA024651/PuTTYkj.html>

をインストールし、

ホスト名 : (ICS-100 のアドレス)

プロトコル : Raw

ポート : 1024

で接続します。

ホールコンピュータから受信したシグナルが、PuTTY 画面に表示されます。

4 設定ファイルの準備

4.1 設定ファイルの準備

インストールフォルダ C:\¥Javatel¥IODEP にある、**iodep.ini** ファイルをテキストエディタで編集してください。空行および、行頭が「#」で始まる行は無視されます。

IODEP.sterasHost.1	ステラス F-1 を接続する ICS-100 の IP アドレスとポート番号を「:」で連結して記述します。 ポート番号は通常は 1024。(ICS-100 の設定に従う)
IODEP.sterasHost.n (n は自然数)	同上。ライセンスで許可された数だけ設定できます。

5 ステラス F-1 トラブル監視システム→IODEP

ステラス F-1 トラブル監視システムに対して IODEP からコマンドを送信することはありません。IODEP はステラス F-1 トラブル監視システム側で発生したシグナルを、コマンド定義ファイルの記述に従ってメッセージとして扱います。コマンド定義ファイルは `ConfigMaker.exe` で編集することができます。

5.1 定義ファイル名

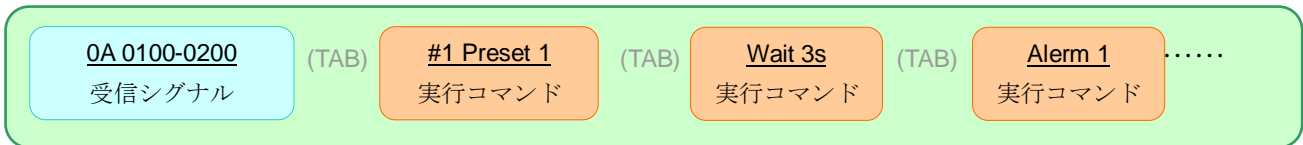
コマンド定義ファイルのファイル名は、以下のように決められています。

- ・ ステラス F-1 トラブル監視システムから受信したシグナルによって **Omnicast** ヘコマンド実行する定義
→`steras-omnicast.dbx`
- ・ ステラス F-1 トラブル監視システムから受信したシグナルによって **Selco** マルチプレクサヘコマンド実行する定義
→`steras-selco.dbx`
- ・ ステラス F-1 トラブル監視システムから受信したシグナルによって **Moxa E2000** シリーズヘコマンド実行する定義
→`steras-moxa.dbx`
- ・ ステラス F-1 トラブル監視システムから受信したシグナルによって **PELCO** マトリクススイッチャヘコマンド実行する定義
→`steras-pelco.dbx`

5.2 メッセージ詳細

5.2.1 定義行の構成

コマンド定義ファイルでは、各行に、**受信シグナル**に続いて任意の個数の**実行コマンド**を記述します。実行コマンドについては「IODEP_共通.doc」の 4.1.2 章、5.2 章および操作対象のデバイスに関する文書を参照して下さい。



受信シグナル	実行コマンド (TAB 区切りで複数記述可能)		
定義ファイルの種別に応じた受信シグナル	定義ファイルの種別に応じた実行コマンド	定義ファイルの種別に応じた実行コマンド	定義ファイルの種別に応じた実行コマンド

サービスがファイル中で定義されている受信シグナルを受け取った際、それに続く実行コマンドが独立したスレッドで続けて実行されます。

同じファイル中で同一の受信シグナルについてのコマンドを複数定義することもでき、その場合各行で定義されたコマンドは別スレッドで並列に実行されます。

5.2.2 受信シグナル書式

ステラス F-1 トラブル監視システム用の定義ファイルでは、発生コードと台または販売機番号半角スペースでつなげて受信シグナルを定義します。

0A (半角スペース) 0100-0200
発生コード 台番号 (範囲)

① 発生コード(16進表記) :

監視システムから受信するイベントのコードを下記「発生コード一覧」から記述する。

「*」(アスタリスク) を指定すると、同じファイル中で定義していないすべての発生コードを意味する。

② 台番号、販売機番号(10進表記) :

イベントが発生した台および販売機の番号を記述する。「-」(ハイフン) で二つの番号をつなぐと範囲を表現できる。

表 1 受信シグナル定義の例

シグナル定義の例	解説
00 0100	番号 0100 で券売機扉あけ・中止
01 5100-5200	番号が 5100～5200 の両替機で扉あけ・中止
05 0100-0200	番号 0100～0200 のサンドで扉あけ・中止
* 0001-3000	上記以外の発生コードが 0001～3000 の遊技台で発生

表 2 発生コード一覧

00	券売機扉開け・中止
01	両替機扉開け・中止
02	精算機扉開け・中止
03	その他の金庫扉開け・中止
04	島金庫扉開け・中止
05	サンド中止・その他
06	メダルサンド扉開け・中止
07	通信エラー
08	警報センサー発報
09	電波感知器作動
0A	幕板開け
0B	パチンコ台扉開け・その他
0C	スロット台扉開け・その他
0D	玉計数機不正異常・その他
0E	メダル計数機不正異常・その他
0F	監視センサー発報
10	島還リフト異常・停止
11	メダル回収期異常・停止
12	メダル補給機異常・停止
13	監視扉開け
14	通用口扉開け
15	予備
16	その他の異常
17	景品交換所呼出・その他
18	景品カウンター呼出・その他
19	代表ランプ呼出・その他
1A	券売機呼出・中止
1B	両替機呼出・中止

2013 Javatel

1C	メダルサウンド中止・その他
1D	精算機呼出・中止
1E	玉計数機呼出・その他
1F	メダル計数機呼出・その他
20	その他の呼出
21	未定義